

「偉大な神の守り」

～キリストを体験する人生～

「その夜、主がパウロのそばに立って、こう言われました。『パウロよ。心配はいらない。あなたは、このエルサレムでと同じように、ローマでもわたしのことを人々に証言するのだ。』」
使徒行伝23章11節 [リビングバイブル]

主はパウロと共にいて、パウロを励ましました。しかし、主が直接民たちに語ったわけではありません。人々の目の前にいたのはパウロでした。人々の目に映っているのはイエス様ではなく、パウロでした。しかし、人々は単なるパウロを見ているのではなく、キリストによって人生を変えられ、キリストによって生き、キリストと共に生きているパウロを見ているわけです。自分の隣にいる友人を他の友人に紹介するように、目に見えないイエス様を他の人々に紹介することはできませんが、キリストによって生きている私たち自身を証しすることはできます。そのためにはまず、私たち自身がどれだけ主を体験しているかということが重要になってきます。

数年前に世の光のゴスペルコンサートで歌ってくださった元フォークシンガー、今では福音を歌うゴスペルシンガーである岩渕まことさんもキリストを体験した方です。元々は聖書ともキリスト教とも全く縁のないただのミュージシャンでしたが、ファンでもあり、音楽の先輩でもある小坂忠さんとの出会いによって、あるとき教会での小坂さんのコンサートのお手伝いをする事になりました。何度かしているうちに、教会でのコンサートをさせていただくことで、とても良いことをした気持ちになって、心地よくなっていきました。そんな中、ある教会でのコンサート前日の祈り会で子どもたちが讃美歌を歌い、大人も元気に歌い、その内に突然、岩渕さんの目から涙があふれ出してきました。ここからは自伝の文章を紹介します。

「そんな中、突然、私の目から涙があふれ出しました。身体のこぼばっていたところがときほぐされるような感じと、子どもの頃に感じたことがあるような安堵感の中で、涙が止まりません。やがて、自分の前にイエス・キリストが立っている感じがしてきました。そして、『なあ岩渕、お前はもう私のことは分かっているだろう、これからどうする？』と声をかけられているように感じたのです。不思議な時間でした。それまで、『キリストというのはクリスチャンたちが信じているのだ、自分とは関係がない』と割り切っていました。この時、〈自分にとってのキリスト〉ということが頭をもたげてきたのです。その夜、宿舎に帰ってこんな祈りをしました。『神さまが本当にいるのなら、よろしく』心の中を新しい川が流れ始めたようなこの夜、狭山の自宅にいる妻に電話をしました。『俺はもう、神さまがいるってわかっちゃったんだ。だから明日のコンサートはただ仕事と割り切ってはできない。ひょっとしたら、イエス・キリストを信じるかもしれないし、信じられなければ、コンサートへの出演をやめて帰るかもしれないよ』」

そして、翌日のコンサート前に牧師先生に導いていただいてイエス様を信じました。